

保健体育科

単元指導計画 作成マニュアル

1 指導と評価の計画を作成するポイント

(1) 各学科に共通する各教科における評価規準の作成及び評価の実施等について

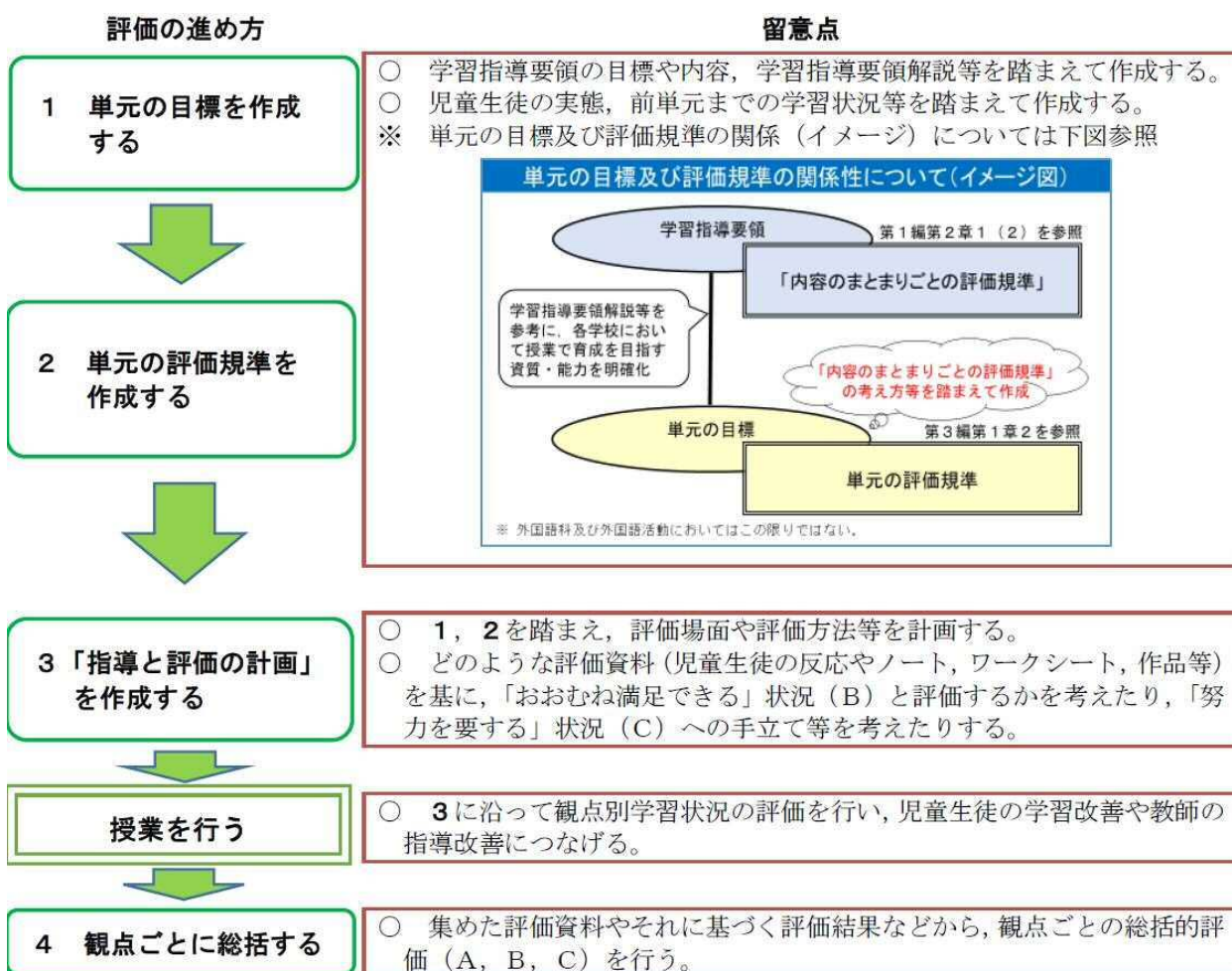
ア 評価の計画を立てることの重要性

学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である。その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取るようになる。そのためには、いつ、どのような方法で、児童生徒について観点別学習状況の評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが引き続き大切である。

毎時間児童生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではないことから、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が一層重要になる。

イ 学習評価の進め方について

各教科の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。



指導と評価の計画

- 1 単元名 球技【ネット型】バレーボール（その次の年次）
- 2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。
- イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。（知識及び技能）
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。（学びに向かう力、人間性等）

3 指導内容と評価規準

【指導内容】

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、 <u>技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</u> イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。	(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。

【内容のまとまりごとの評価規準】

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方など <u>について理解している。</u>	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること <u>ができる。</u>	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを <u>他者に伝えている。</u>	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合い貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなど <u>をしたり、健康・安全を確保したりしている。</u>

知識は【指導内容】の波線部「～について理解する」の部分を記載する。

単元指導計画の作成について
手順①～③

手順①
そのまま
コピー。

- (1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。
- ア ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること。
- イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。
- ウ ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすること。

- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。

- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。

学習指導要領解説P 1 2 2
[入学年次の次の年次以降]
(1)知識及び技能

今回は
ネット型

学習指導要領解説P 1 2 7
[入学年次の次の年次以降]
(2)思考力、判断力、表現力等

学習指導要領解説P 1 2 8
[入学年次の次の年次以降]
(3)学びに向かう力、人間性等

手順③
【指導内容】を
コピーして【内容の
まとまりごとの評価
規準】を作成。
その際、文末を
変換。

(1)「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

- 「知識・技能」のポイント
- ・学習指導要領の(1)の文章中、「知識」について該当する箇所は「技の名称や行い方、(略)について理解する」の部分であり、「技能」について該当する箇所は、領域の内容の技能の指導内容を示した「ア、イ、ウ、エ」の部分である。
 - ・「知識」については、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。
 - ・「技能」については、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する領域の内容の技能の指導内容について、その文末を「～できる」として、評価規準を作成する。
- 「思考・判断・表現」のポイント
- ・学習指導要領の(2)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている」として、評価規準を作成する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
- ・学習指導要領の(3)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

学習評価参考資料P 3 3
②【観点ごとのポイント】を
踏まえ、「内容のまとまり
ごとの評価規準」を作成する。

※参考

巻末資料をコピーする方法もある。

学習評価参考資料P 1 4 2 コピー※
3 内容のまとまりごとの評価規準（例）
[入学年次の次の年次以降] E 球技

E 球技		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識	・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	
○技能	・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。	・ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。		
	・ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。			

【全ての単元の評価規準】

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
○知識 ・球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があること <u>について、言ったり書き出したりしている。</u> ・球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができること <u>について、言ったり書き出したりしている。</u> ・課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があること <u>について、学習した具体例を挙げている。</u> ・競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方があること <u>について、言ったり書き出したりしている。</u>	○技能 イ ネット型 ・サービスでは、ボールに変化をつけて打つこと <u>ができる。</u> ・ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すこと <u>ができる。</u> ・ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすること <u>ができる。</u> ・変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすること <u>ができる。</u> ・移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げること <u>ができる。</u> ・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること <u>ができる。</u> ・ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと <u>ができる。</u> ・チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすること <u>ができる。</u> ・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすること <u>ができる。</u> ・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動すること <u>ができる。</u> ・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすること <u>ができる。</u>	・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を <u>指摘している。</u> ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を <u>発見している。</u> ・チームや自己の課題を解決するための練習の計画を <u>立てている。</u> ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を <u>提案している。</u> ・練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について <u>提案している。</u> ・チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を <u>提案している。</u> ・チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を <u>見つけている。</u> ・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を <u>見つけている。</u> ・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を <u>見付けている。</u>	・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを <u>大切にしようとしている。</u> ・作戦などを話し合う場面で、合意形成に <u>貢献しようとしている。</u> ・一人一人の違いに応じたプレイなどを <u>大切にしようとしている。</u> ・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い <u>高め合おうとしている。</u> ・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を <u>確保している。</u>

手順④
解説の＜例示＞をコピー。

- (1) 知識及び技能
○知識 ＜例示＞

○技能 イ ネット型 ＜例示＞

(2) 思考力、判断力、表現力等 ＜例示＞

(3) 学びに向かう力、人間性等 ＜例示＞

学習指導要領解説 P 1 2 3	中段記載
学習指導要領解説 P 1 2 5	中段記載
学習指導要領解説 P 1 2 8	中段記載
学習指導要領解説 P 1 3 0	上段記載

学習評価参考資料 P 4 7 全ての「単元の評価規準」を作成する

【知識・技能】	例示の文末を「～について、言ったり書き出したりしている」(a) 「～について、学習した具体例を挙げている」(b) に変換するなどして作成する。 (a) 一般的に認知された科学的な知識等を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。 (b) 学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。 例) 例示：課題解決の方法では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、(中略) 新たな目標の設定といった過程があること。 ↓ 解説：課題解決の方法では、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、(中略) 新たな目標の設定といった過程があることについて、 <u>言ったり書き出したりしている。</u>
知識	
技能	例示の文末を「～ができる」に変換するなどして作成する。 例) 例示：新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ること。 ↓ 解説：新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ること <u>ができる。</u>
【思考・判断・表現】	例示の文末を「～している」に変換するなどして作成する。 例) 例示：課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見すること。 ↓ 解説：課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見 <u>している。</u>
【主体的に学習に取り組む態度】	例示の文末を「～しようとしている」(a) 「～を確保している」(b) に変換するなどして作成する。 (a) 意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いている。 (b) 「健康・安全」の観点については意欲を持つことにとどまらず、実践することが求められているものであることから文末の表記を変更している。(解説 P. 39 参照) 例) 例示：自己の状況にかかわらず、よい演技を <u>観ようとしている。</u> ↓ 解説：自己の状況にかかわらず、よい演技を <u>観ようとしている。</u>

手順⑤
文末変換。

【単元の評価規準】

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
○知識 ①今まで学習してきたバレーボールの技術や戦術、作戦の名称や、それらの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントがあること。また、安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を書き出している。 ・球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ・課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方があることについて、学習した具体例を言ったり書き出したりしている。	○技能 イ ネット型 ・サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。 ①スパイクやフェイント、ブッシュなどを使い分け、ボールを相手側のコートの守備のいない空間にコントロールすることができる。 ・ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができる。 ・変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。 ・移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げることができる。 ・仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ・ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ・チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 ・相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。 ・仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすることができる。	・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ・チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。 ・練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。 ・チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。 ・チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見つけている。 ①体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見つけている。 ②球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見つけている。	・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ①一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ・仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ②危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

学習評価参考資料P 4 8 全ての「単元の評価規準」を作成する

【手順3】全ての「単元の評価規準」から選択したり、作成したりするなどして当該単元の評価規準を設定する。

【手順1】で作成した計画に基づき、【手順2】で作成した全ての「単元の評価規準」から選択したり、実際の授業にあわせてより具体的に作成したりするなどして当該単元の評価規準を設定する。

手順⑥
⑤をコピーし
評価規準を選択。
or
授業に合わせ
具体化

※1 図中の○囲み数字は、当該単元の評価規準を示す。
⇒学校や生徒の状況（男女の比率や技能レベル）に応じて評価規準を選択または作成して、計画上評価していくものを選ぶ。

※2 図中、 囲み部分（3カ所）は、生徒の状態を想定かつ授業の内容に合わせたものとして、具体化した評価規準（例）である。
・今回想定した生徒と体育館の状況
⇒生徒は30名（男女比1：1）、男女それぞれにバレーボール部員が数名いる
授業では常に2コート使用できる
・バレーボールの単元に合うよう、言葉を具体的な物に変えている。

手順⑦ 指導と評価の一体化を目指して（留意事項等の確認）

学習評価参考資料P 4 9 から抜粋

ア 指導内容や指導方法と関連付けた評価の進め方

評価のみを単独で捉えるのではなく、「何を教えるか」「どのように教えるのか」といった、指導する内容や指導方法等と関連付けて検討することが大切である。

また、学習評価が、「生徒の学習改善につながるもの」として活用されることが極めて重要である。育成を目指す資質・能力毎に、評価情報を、どのような方法で、どのタイミングで生徒にフィードバックしていくことが効果的であるかを考慮して、指導と評価の計画をデザインすることが重要である。

イ 効果的に観点別学習状況の評価を進める上での観点ごとの留意点

※留意事項に十分配慮した授業づくりが求められる。

ウ 各観点の指導場面と評価機会の関係

「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の二つの観点における評価は、技能の獲得、向上や態度の育成等に一定の学習期間が必要となること、主に観察評価によって評価を行うことから、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける工夫をしている。

※「思考・判断・表現」の評価は、このマニュアル例では学習ノートの内容から評価の材料を得ようとしている。さらに、生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して評価の妥当性、信頼性を高める工夫をしている。

エ 評価結果の学習や指導の改善への活用

評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法、評価規準や具体的な評価方法等について、事前に教師間で検討するなどして明確にすること、評価に関する実践事例を蓄積し共有していくこと、評価結果についての検討を通じて評価に係る教師の力量の向上を図ることなどに、学校として組織的かつ計画的に取り組み、評価の妥当性を高める工夫が求められている。

単元の目標		知識及び技能		次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。											
		思考力、判断力、表現力等		生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。											
		学びに向かう力、人間性等		球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。											
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
学習の流れ	0	健康観察 ・ 準備運動 ・ 本時の目標 ・ 内容等の確認													
	10 20 30 40	オリエンテーション	ボールを使ったアップ（空間把握力を鍛える動き） ・各種スローイング ・ 空中キャッチ etc						グループごとの反復練習 （パス、サーブ、スパイク、チーム練習）						
			【学び直し】 全体学習（最初だけ） ・各種パス ・レシーブ ・サービス ・スパイク ・フェイント、プッシュ ⇒ポイント説明・明示 <u>知①：ポイント</u> <u>技①：ボール操作</u>		○スパイク・フェイント・プッシュ 【グループ学習】 ・グループに適した練習方法について考え、実践する。										○スキルテスト スパイク・フェイント・プッシュなどを使い分ける
			【違いを超えて楽しむため提案されたルールでのゲーム】 ・サービスは投げ入れ、ワンバウンドOK、レクリエーションボールを使う etc ⇒実情に応じたルールの工夫や行動の仕方の提案 <u>思①：調整の仕方</u>		⇒一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする <u>競①：共生</u>										
		ボールを使ったアップ	○バドミントンコートでソフトバレーボールゲーム ○パスラリーゲーム								【競技会について立案】 ・ルール ・審判 ・用具 ・進行 etc ⇒委員会の設立 <u>思②：多様な関わり</u>		【競技会】 ⇒役割とルール遵守 <u>競②：健康安全</u> ⇒ゲームの中でカバーの動きの観察 <u>技②</u> ※能力が高い生徒への配慮として、例えば2つのリーグを作り、運営方法やタイムテーブルについて考えさせる提案をする。 ・男女一緒のリーグ（全員選手・全員で運営） ・トップリーグ（希望者のみ選手・全員で運営）		
	50	整理運動 ・ 学習の振り返り ・ 次時の確認													
評価機会	知		(①)	(①) (②) 評価情報を生徒に伝えるタイミング					①		(②)		②		総括的な評価
	技		(①)						①			(②)		②	
	思				(①)		①			(②)		②			
	態				(①)			①		(②)		②			
評価規準	知	①今まで学習してきたバレーボールの技術や戦術、作戦の名称や、それらの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントがあること。また、安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を書き出している。 ②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方があることについて、学習した具体例を言ったり書き出している。													
	技	①スパイクやフェイント、プッシュなどを使い分け、ボールを相手側のコートの守備のいない空間にコントロールすることができる。 ②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。													
	思	①体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見つけている。 ②球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。													
	態	①一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ②危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。													

手順⑧
単元の目標
をコピー

手順⑩
指導の計画
を検討

手順⑩と⑪は平行して考えること。3観点において、生徒に身につけさせたい力は、何なのか？教師間で必ず共有し、検討を進める。

手順⑪
評価の計画
を検討

手順⑨
単元の評価
規準から
コピー

○毎時間学習ノートの提出（スプレッドシート）
Google classroomを活用し回収。

【学び直し】
・最初の時間に全体指導、その後グループ活動。
・ホワイトボードで動きの名称とポイントを明示。
・タブレットで手本となる動きを視聴できるよう、データを用意しておく。自身の動きの撮影。
○スキルテストとペーパーテストの評価について知らせ、「生徒の学習改善（主体的に学習に取り組む態度）につながる」よう評価情報を伝える。

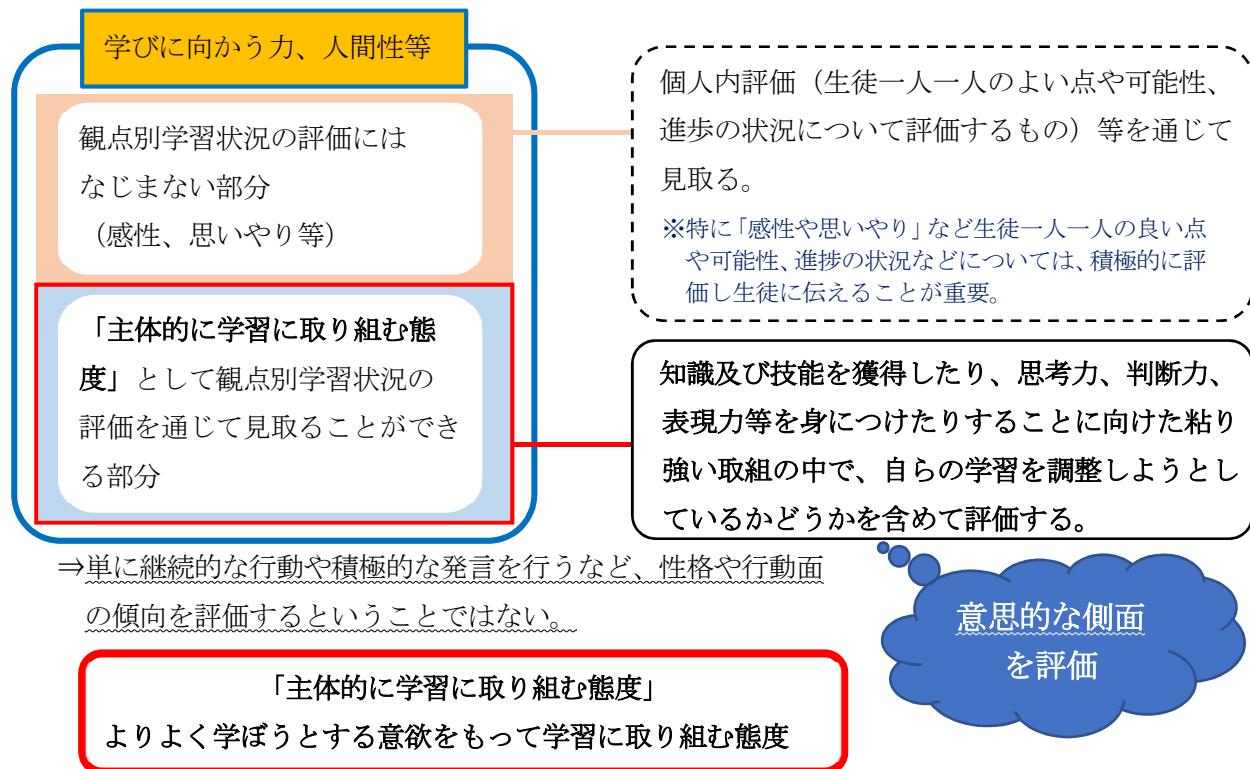
【違いを超えて楽しむゲーム】
○思①：調整の仕方と態①：共生の評価について説明する。ノートの記述により評価するが、話し合いの様子も観察し、評価の妥当性を高めるようにする。
・最初の時間に共生指導の導入として体力や技能、性別など違いがある中で、「バレーボールが楽しいと感じる場面と楽しくないと感じる場面はどのような時か」グループで話し合い。これをもとに楽しさには一人一人に違いがあることを確認。指導のキーワードを使って「一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする」ことを説明する。

学びに向かう力、人間性等
学習評価参考資料P85、86
球技では、公正、協力、参画、共生などが重点化され示されている。また、「例えば、協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった協力することの意義などの汎用的な知識を関連させて指導することで、生徒自身の主体性を促し、・・・」
・○指導のキーワードと■想定される学びの姿の例について検討・共通理解を図る
⇒学習評価の信頼性と妥当性の確保

【競技会】の立案（多様な関わり方）
・ルール委員会 ルールの検討、他の委員会と調整
・審判委員会 審判法の学習、審判計画の作成
・用具委員会 用具の準備、試合間の清掃計画、得点
・進行委員会 進行表の作成・記入、当日の進行、開閉会式シナリオ作成
⇒全員に役割をあて、「みる、支える、知る」などの関わり方を考える授業としたい。
※指導のキーワードを検討、共有

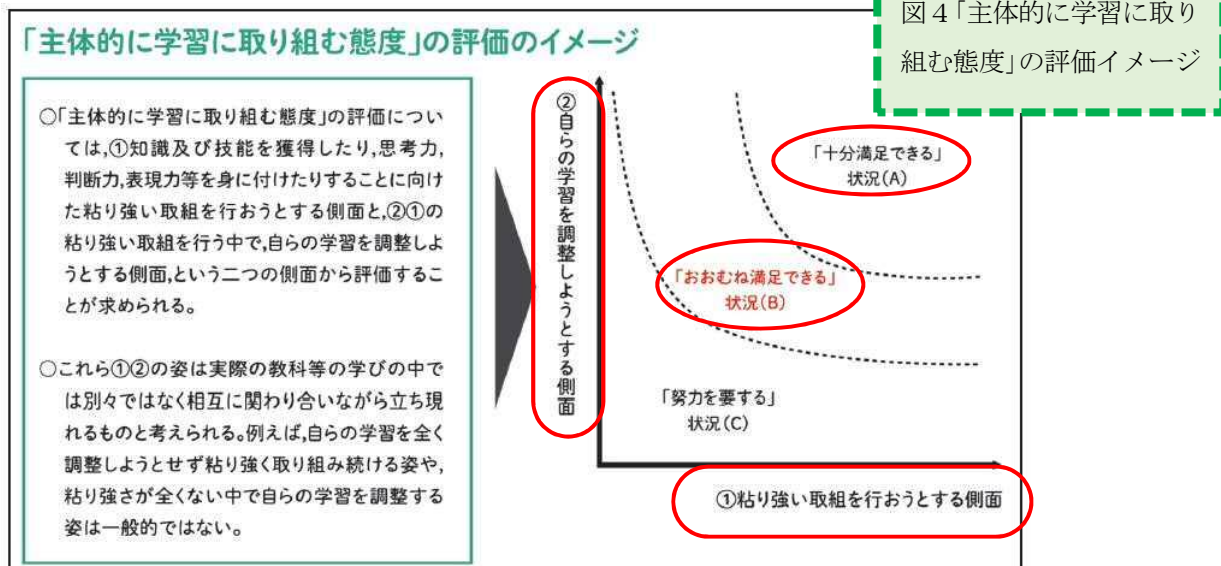
2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の基本構造



(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面。
- ②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。



□指導のキーワードと想定される学びの姿を教師間で検討・作成・共通理解をしておく。(例) 参画指導のキーワード：評価情報を伝える際、ホワイトボードに明示し直接説明する。

「仲間を尊重する」「相手の感情に配慮する」「建設的な話し合いを進める」

※具体的な知識（参画の場面や参画の仕方）と汎用的な知識（なぜ参画しなければならないか）

⇒関連させて指導することで、豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図る。

想定される学びの姿：（授業観察や）ノートに記載から、以下の内容があればそれぞれ評価する。

A：「他者の意見を理解しようとする」「相手の感情に配慮した発言」「解決策を提案」

B：「他者の話を聞く」「自分の意見を言う」「話し合いに参加している」

3 観点別評価の実際

- (1) 平成 30 年の高等学校学習指導要領改訂における各教科・科目の学習評価について

学習評価参考資料 P 8

【高等学校学習指導要領】（学習指導要領に示す各教科・科目の取り扱いは次のとおり）

〔各教科・科目の学習の記録〕

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が生徒や地域の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B
「努力を要する」状況と判断されるもの：C

のように区別して評価を記入する。

II 評定

各教科・科目の評定は、学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が生徒や地域の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの：5
「十分満足できる」状況と判断されるもの：4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：3
「努力を要する」状況と判断されるもの：2
「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」状況と判断されるもの：1

のように区別して評価を記入する。

評定は各教科・科目の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科・科目の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

- (2) 観点別学習状況の評価のばらつきについて

観点ごとの大きな差が生じないように、指導と評価の取り組みを重ねましょう。

単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じるとしても、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することにより、単元末や学期末、学年末の結果として算出される3段階の観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差は生じないものと考えられる。仮に、単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、児童生徒の実態や教師の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童生徒への支援を行い、児童生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められる。

出典：「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」

(3) 「観点別学習状況の評価に係る記録の総括と評定への総括について」 例) 県内A高校の教務が作成

評定・評点・観点別評価の対応表					
観点別学習状況の評価		評点		評定	
A	「十分満足できる」状況と判断されるもの	100～65	100～80	5	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
			79～65	4	「十分満足できる」状況と判断されるもの
B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	64～45	64～45	3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C	「努力を要する」状況と判断されるもの	44～0	44～30	2	「努力を要する」状況と判断されるもの
			29～0	1	「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」状況と判断されるもの

□ 1 学期評価 (例) ※観点別評価 A=3 点、B=2 点、C=3 点 として計算している。

単元	1		2		合計	評点	観点別評価
	①	②	①	②			
知識	A 3 点	B 2 点	A 3 点	B 2 点	16/24 →66.7%	67 点	A
技能	B 2 点	C 1 点	B 2 点	C 1 点			
思・判・表	B 2 点	B 2 点	A 3 点	B 2 点	9/12 →75%	75 点	A
主体的な態度	A 3 点	B 2 点	A 3 点	B 2 点	10/12 →83.3%	83 点	A

□ 学年末における評価 (例)

学期		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期の評点 (観点別評価)		67 (A)	75 (A)	83 (A)
2 学期の評点 (観点別評価)		76 (A)	62 (B)	66 (A)
3 学期の評点 (観点別評価)		80 (A)	70 (A)	68 (A)
年度末の評点平均 (観点別評価)		(67+76+80)/3 =74.3 (A)	(75+62+70)/3 =69 (A)	(83+66+68)/3 =72.3 (A)
評価の 総括	年間評点平均	(67+76+80+75+62+70+83+66+68)/9 = 71.9		
	年度末評点	72		
	年度末評定	4		

よって、学年末の観点別評価は「AAA」、評点は「72」、評定は「4」となる。